

平成28年度石巻地域産業人材育成・定着推進会議（第1回）

参加者発言要旨及び意見交換概要

日時：平成28年6月10日（金）午後1時30分から
場所：宮城県石巻合同庁舎仮設001会議室

1 会議の目的

石巻地域における高校生の産業人材としての育成と就職後の定着に向け、各高等学校の取組や就職先となる地元企業が求める人材について意見交換を行う。

2 出席者

宮城県教育庁高校教育課キャリア教育班	指導主事	太田 祐一
宮城県石巻工業高等学校	教諭	佐々木 寛征
宮城県石巻商業高等学校	教諭	鶴田 幸喜
宮城県石巻北高等学校	教諭	山本 浩人
宮城県石巻北高等学校飯野川校	教諭	大橋 孝幸
宮城県水産高等学校	教諭	油谷 弘毅
宮城県石巻西高等学校	教諭	吉見 郁哉
宮城県東松島高等学校	教諭	横山 浩人
石巻市立桜坂高等学校	教諭	小山 信
宮城県立支援学校女川高等学園	教諭	鈴木 瑞穂
宮城県石巻高等学校 シチズンシップ教育推進コーディネーター		
宮城県石巻好文館高等学校（兼務）		西條 高司
宮城県東部地方振興事務所地方振興部	地方振興部長	佐藤 健二
〃	次長（総括担当）	薄木 茂樹
〃 商工・振興第一班	次長（班長）	元木 潔
（事務局）	技術主査	菅原 伸

3 参加者発言要旨

協議事項1 宮城県東部地方振興事務所の取組について

以下の事項について事務局から報告。

○石巻地域産業人材育成・定着推進会議について

- ・石巻地域産業人材育成プラットフォーム会議で出された意見について詳細な検討を行うため、年間3～4回開催。
- ・昨年度は実業高校を中心に4校に参画いただいたが、今年度は石巻地域全体の取組みとするため地域内の全校等学校及び女川高等学園に参画いただくこととした。初参加の高校が多いため、各校のキャリア教育の実施状況や就職・離職状況等を共有するため、第1回を担当教諭のみの会議とした。

○石巻版インターンシップの推進について

- ・昨年度の本会議で検討して「石巻版インターンシップに関するガイドライン」を策定。いわゆる職場体験より進んだ形で、受入企業側が積極的に関わるルールを定めて取組みを推進。
- ・受入前に企業が「受入計画」を策定・表明。受入後に、企業側の受入の在り方と学校側の成果分析を検証し、次年度の取り組みに活かすという枠組み。当事務所でも受入計画を策定し、県の組織としては初の高校生向けインターンシップを受け入れたいと考えている。
- ・受入計画の策定企業は、「産業人材育成・定着協働者ガイド」の冊子に掲載されている企業の皆様と相談しながら徐々に増やしていきたい。石巻地域全体で、インターンシップを実施しやすい体制を考えていきたい。

○マッチング支援事業や産業人材育成・定着ガイドについて

- ・学校が企業から社会人講師を呼びたい、工場見学に行きたいといった場合に経費の一部補助を行う事業。ご活用いただきたい。
- ・ガイドブックについて紹介。掲載項目に「障害者雇用への関心」を追加。学校からの要望があれば今後もガイドブックを改良していきたいと考えているので、意見を寄せていただきたい。

○早期離職者対策について

- ・就職後不可欠なコミュニケーション能力の向上を図るため「ヴォイストレーニング」セミナー実施予定。他の地方振興事務所で実績がある。

- ・桜坂高校と北高飯野川校で計画中。県で予算措置しており、公開授業という条件で実施するため見学も可能。

協議事項2 インターンシップ・ボランティアなど教育資源活動実態について

以下の事項について事務局から報告。

- ・各種調査研究・報告等で、インターンシップなどの多様な経験の機会の充実が提言されている。
- ・県内の昨年度のインターンシップ実施率は平成27年度：67.1%。全国の実施率は、平成26年度：79.3%。
- ・県内の全日制高校の平成27年度実施率は専門学科：100%、普通科：55.3%。普通科であっても体験的な学びにより自らの将来について考える機会を作る事が重要。少人数でも構わないので実施していただきたい。
- ・ボランティア活動については、平成27年度の実施率：92.4%。毎年前年度よりも上昇傾向。

協議事項3 管内各高等学校のキャリア教育の取り組み状況について

各高校から、主にキャリア教育における①方針、②実施内容、③課題、④生徒に身に付けさせたいキャリアという論点で情報提供いただいた。

(以下、①～④は各論点に対応)

○普通高校A

- ① 進学が目前の目標であるが、その先の就職等を見据えての教育。
- ② 全学年に共通して行っているのは社会人講話。様々な業種の経験談を、毎年ある程度テーマを絞って、石巻地域で活躍するOBを中心に聞いている。

○普通高校B

- ① 進学が目前の目標であるが、その先の就職等を見据えての教育。
- ② 2年生を対象とした社会人(OB)講話。3年生の家庭科の活動では、保育園での保育体験や、看護師希望者による看護体験も実施・奨励。

○実業高校A

- ① 生徒が発達段階に応じて様々な取り組みを行い、最終的には生徒の進路に対する意識を高揚させ、正しい職業観を育成。ものづくりの魅力を伝えながら、生徒の技能・技術・向上を図る。
- ② 2学年全員でのインターンシップ。正しい職業観を育成。
- ③ 受入れ先の確保。何とか2学年全員分は確保した。また、授業時数確保の観点からインターンシップ等の行事が縮小傾向。去年までは9月に行っていたものが、今年度からは授業日以外の夏期休業中に実施する計画に。さらには部活動の兼ね合いも課題。
- ④ キャリア教育とは本来「働く事に関わる継続的なプロセス」「働く事にまつわる生き方」だと考える。

○実業高校B

- ① 進路に特化した指導だけではなく、全体的な人間として力をつける指導。
- ② SPIの検査、職業適性検査等も実施、2年次インターンシップも実施。また、主要行事以外にも、生徒指導部と連携した日常のいわゆる礼儀作法・挨拶・服装等を徹底。インターンシップは2年生全員を対象に10月中に2日間実施していたが、今年度から希望者に変更。
- ③ 全ての生徒が希望する実習先を確保するのが困難。不本意ながら第2、第3希望の実習先で実習する生徒がいて、モチベーションがなかなか上がらない生徒も。
- ④ やはり定着率。

○実業高校C

- ① 「現在の自分の人間関係」を客観的に見つめさせ、最終的に「ライフプラン(将来どうしたいのか)」について計画させる。いま自分はどうしたいのか、10年後、20年後の自分の姿を思い浮かべて、それをイメージしてそこに向かって努力するよう進路指導を実施。
- ② 教養系列という就職に向けて2・3年次で必要な知識を身につけるコースで、キャリアアップ講座を実施。東部地方振興事務所の協力を頂き、地元企業の社長4名、更には、社長の元で働いている従業員4名を招いて社会の視点に触れてもらう。

○実業高校D

- ① 全体計画よりも個別の目標を重視し、それを教員間で共有して指導。

- ② 1年生：「卒業生VTR上映会」で定着指導，進路学習会では産業別・職種別，小学校教諭，自衛官の方から講話。
2年生：全員がインターンシップを2日間実施。
3年生：「ものづくり企業見学会」として大崎地区・仙台地区で2社訪問。
4年生：面接セミナーや，就職活動セミナーを実施。

○実業高校E

- ① 地域産業に入って行ってもらいたい，そちらに向いて欲しいという所を目指して指導。
- ② 2年生のインターンシップを事前指導し，希望制でなく，「あなたはここ」と振り分けて，3日間実施。終了後に情報共有，新しい分野の発見があったり，会社の意外な一面が見えたり，職業選択の面から一定の成果あり。
3年生は，専門学校の職業講話や，地元社会人講話。
- ③ 行かせて終わりではなく，事前に目的を持つこと，終了後に情報共有することを指導することが重要。
- ④ 社会の基礎力，自分で考えて行動する力，前に踏み出す力，チームで働く力。

○普通高校C

- ① 主にキャリアプランニング能力の育成に特化して実施。
- ② 1年生：自分は何をしたいのか，自己理解。
2年生：1年生で考えたものを，大学・専門学校・就職先という形で具体化。
3年生：ほぼ受験だが，将来を見つめ，進学先学科と，将来の就職先・職種について考えさせる。就職希望者が10人以下であるためインターンシップは実施していない。
- ④ 本当に自分がやりたい職業に関する進学先なのか，学科なのか，系列なのか。その関連性や自らの進学先・就職先を調べ考えていく能力。

○普通高校D

- ② 希望制のインターンシップを実施。
- ③ 毎年呼びかけをしているが参加者が数名程度。

○普通高校E

- ① 地元や社会に貢献できる力を持った生徒の育成。1年次：コミュニケーション能力の向上，地域の事を知る・働く人を知る事を目標。2年次：プレゼンテーション能力の向上，地域産業や勤労の意味を知る。3年次：地域行政・産業界の課題発見，社会人としての常識やマナーを知る。
- ② 1年次：グループワーク，社会人講話，商店街プロジェクト。
2年次：2年生全員でインターンシップを実施。例年，企業の希望を取っていたが，今年は学校側で企業を割り振り，全く興味も関心もない所に送り出す予定。就業体験を目標にするのではなく，企業の企業理念や従業員について理解させる。場としてのインターンシップとして位置づけ。
3年次：主権者教育，社会講話，親教育，社会の常識とマナー。
- ③ 工業系の企業から「女子生徒は受け入れられない」という回答が多いこと。
- ④ 地元で活躍できる女性をいかに作りあげるかということ。

○特別支援学校

- ① 進路先を探す，見つけてそこで働かせるだけではなく，生き方の指導と捉えている。何らかの支援が必要な子ども達が自分を活かせる職業と生き方を考えて，そこで長く働いて自立した生活が最終的に送れるよう力をつけさせることが目標。
- ② 本校のインターンシップは，産業等における現場実習。6月に2週間，10月に3週間（年2回）×3年間（カリキュラムの中で組み込まれている）。
1年次：町の全面協力で，企業8社が実習受入れ。
2・3年次：地元での実習。そのまま雇用の可能性のある企業を開拓して，2年間で育成。
- ③ 1日通して働き通すことができるか。また，新設校であるためPRの難しさ。障害の理解と企業の理解という，お互いの需要と供給が満たせるようなネットワーク作りを図りたい。
- ④ 基本的なルール，マナー。やり切る力。一番ネックになってくるのが社交性，コミュニケーション。とにかく外の人との関わりを多く持たせて，接し方を学ばせる。法定雇用率の問題。日本で一番法定雇用率達成していないのが宮城県で，しかも石巻市が最下位。徐々に企業の障害に対する理解が増えてきたと実感しているが，これからも企業に障害者の活躍できる場をPRしていきたい。

4 意見交換

キャリア教育，具体の進路指導等への地元企業の支援を期待する内容について，各高校から意見を頂いた。

（インターンシップについて）

- 県やハローワークにはインターンシップの受け入れ先を開拓頂いて助かっているが，インターンシップをする事が目的にならないように，生徒の身につけたいものを身につけるための取組を進めたい。就労体験，アルバイト，バイトーンを重視しようかと考えている。インターンシップは引き受けるのが目的ではなく，人材育成のための取組として，社会貢献で一役，力を貸していただきたい。
- インターンシップについては，アセスメントを取っていただける所を求めたい。その子の課題を洗い出してくれる評価があると，それが伸びにつながる。本校では，受入れ実習先を巡回し，評価表を渡して回収している。強制ではないが多くの会社から回答があり，簡単に評価をしてもらうことにより，事後指導に役立っている。
- インターンシップ先の確保に苦慮しており，OBが長く勤めている企業を訪問して趣旨を説明し，何とか受入先を確保できているような状況。生徒のインターンシップ先の希望は第3希望まで調査し，極力希望に沿って調整するが，最終的には学校側が振り分けていくことになる。
- 希望したインターンシップ先と違うことに不満を持つ生徒もいるが，インターンシップの目的を説明して納得させている。好きな分野ではなく，学校で勉強している分野について現場で学んできて，終了後に学校で情報共有するのが目的であることを説明。ただしそれは2年生のインターンシップ。3年生では具体的な希望進路先とインターンシップ受入先にミスマッチが起きてしまったら意味がない。事前の適切な指導が重要。

（社会人講話等について）

- 普通高校ではOB・OGを使う事が多い。普通科高校ではインターンシップよりも講師派遣を依頼することが多いので，例えばガイドブックに「この企業にはこういった高校の出身者がいる」というような項目があると依頼しやすくありがたい。

（高校教育課から）

- 学校側は企業に対してお願いしづらい，注文を付けづらい状況がある。そういった部分を東部地方振興事務所に担ってもらえる取組は学校の先生方はすごく助かるのではないかと。
- インターンシップについては，何を目的に行うかが重要。しかし，学校側でもどう指導したらよいかわからない部分があるし，企業側にも温度差・やりづらい部分がある。両者の間に入って東部地方振興事務所にはお力添え願いたい。

5 推進会議の今後の予定について

- 次回は秋口（9月～10月）開催予定。